

国際大会参加報告書

2009年 7月 3日

社団法人 日本ボディビル連盟
 会長 玉利 齊 様

報告者 栗原信行 

大会名	日韓親善試合				
開催期間	2009年 6月 10日 ~ 2009年 6月 13日				
開催場所	国名: 韓国		都市名: ソウル		
参加国数	2 カ国		参加選手数	10 名	
役員	役員名		役職・他		
	団長	吉田 進	JBFF 副会長		
	監督	栗原 信行	" 医科学委員		
	コーチ				
	通訳				
選手	選手名	所属連盟	カテゴリー	順位	備考
	相馬 貴子	長野	女子 55kg 級	1位	
	丹羽 真一	愛知	男子 70 "	"	
	平野 則正	京都	" 75 "	2位	
	郷 直樹	東京	" 80 "	"	
	中武 克雄	大阪	" 85 "	"	
レポート	別紙レポート「日韓親善試合同行記」 添付				

※ 本報告書は帰国後1ヵ月以内に大会結果表を添付して日本連盟事務局に提出して下さい。

※ レポート欄が足りない場合は別紙に記入して添付して下さい。

「日韓親善試合同行記」

JBBF 医科学委員, JOC 強化スタッフ 栗原 信行



6月10日(水)羽田空港、今回の日韓親善試合の日本選手団監督を仰せつかり、吉田進団長、郷直樹選手、相馬貴子選手と私の4名で韓国へ旅立ちました。14時20分にソウル到着、既に関西からは丹羽真一選手、平野則正選手、中武克雄選手が到着しており、日本選手団全7名が揃いました。

空港には韓国の事務局の方が迎えに来て下さり、我々はホテルへと向かいました。今回は6月13日迄の3泊4日の滞在、宿泊先はロッテワールドホテルです。このホテルは韓国国内でも三本の指に入るという名門ホテルで、周囲には遊園地、映画館、スケート場、デパート等があり、まさにロッテワールドです。

18時よりホテルにてレセプションが行なわれ、吉田団長と私は正装をして選手共々7名で出席しました。会場は韓国の役員の方々200名程で埋め尽くされており、私達は盛大な拍手で迎えられ、圧倒してしまいました。初めに韓国キム会長の挨拶があり、続いて日本代表吉田団長の挨拶です。吉田団長は流暢な英語で話され、場内からは盛大な拍手が沸き起こりました。恥ずかしながら私は、この時に今回の韓国の大会が全韓国選手権であると知った次第です。韓国の役員の方々が次々に握手を求めて下さいましたが、「今回どうして玉利会長は来られないのですか」と幾度となく聞かれました。程なくして、レセプションも終了。明日からはいよいよ大会の始まりです。11日が予選、12日が決勝とのことで、日本選手の出番は12日です。

翌日は12時にホテルを出発、今回の会場はソウルオリンピックでフェンシングが開催された会場だそうです。13時より開会式、まずは韓国キム会長の挨拶、続いて吉田団長の日本語による挨拶、その後は役員の紹介等々、とにかく長いセレモニーが終わり予選審査開始です。

予選審査には大変な数の選手が出場しています。ペアにフィットネス、女子が4カテゴリー、男子は9カテゴリー。そして男女の各クラスの優勝者の中からミスター&ミス韓国を選出。日本の選手は、明日それぞれのクラスの優勝者と競います。

翌12日は韓国選手権の決勝審査の後、日韓親善試合が開始されました。僭越ながら私も審査員として参加させて頂きました。最初は韓国女子55kg級の優勝者と相馬選手との対戦です。まずはフリーポーズから始まり、その後比較審査へ。韓国の女子選手はバリバリで素晴らしい仕上がりではありましたが、しかしそれとは対照的に、甘さは残るものの絶対的な筋量(特に肩・背中)とアウトラインが目を引き、見事相馬選手の勝利となりました。

いよいよ男子の部、70kg丹羽選手の登場です。丹羽選手は前日若干ウエイトオーバーとのことで、今朝は朝食抜きで厚着をしてホテル周囲をジョギング、「やるからには勝ちに行きます」と真剣そのものでした。対する韓国の選手もさすがこの日のために仕上げてきた感があり見事なものでしたが、結果はバランスと大腿部の見事な筋量により丹羽選手が勝利を手中にしました。日本選手団は幸先よく二連勝です。

次は75kg級の平野選手です。平野選手はゴールドジムの職員とのことで、ボディビルに対して物凄い情報量を持ち、大変前向きな選手です。今回は三度目の日韓親善試合出場だそうです。75kg級は韓国の中で最も選手層が厚いクラス、相手はこのクラスを勝ち抜いてきた選手だけに筋量切

れ共に見事でした。平野選手も落ち着いた隙のないフリーポーズを披露、比較審査に移ります。筋量では決して引けを取らない平野選手でしたが、やはり仕上がりの点で韓国選手に軍配があがりました。

続いて80kg級ですが、郷選手は二週間程前に椎間板ヘルニアと診断され、ブロック注射と鍼治療を受け参加したとの事。股関節に痛みがあり、歩行時には足を引きずった状態でした。私が少し治療をさせてもらい、多少脚に力が入るようになったそうで見事なフリーポーズを見せてくれましたが、比較審査で韓国選手の筋量に敗れてしまいました。

これで二勝二敗の五分、しんがりは85kg級中武選手です。対戦するのは先程オーバーオールを勝ち抜きミスター韓国となった選手、手強い相手です。ご存知のように中武選手は現役の競輪選手であり、競輪の世界では世界6位迄いったという素晴らしいアスリートで、気の強さも天下一品。しかし韓国の選手も、国の名誉を賭けた負けられない戦いで気合充分です。筋量・バランス共に両者引けを取らない勝負でありましたが、やはりこの日のために照準を合わせてきた韓国の選手に仕上がりの面で一步及びませんでした。

これで日韓の5つの対戦は終了、三勝二敗で韓国チームの勝利となりました。日韓親善試合は、日本と韓国で交互に開催されるため、それぞれの国の全国大会と同時開催になります。先程も述べたように韓国の選手は、韓国選手権出場のため最高のコンディションで出場しており、方や日本選手はこれからがシーズンといった時期であり、調整不足の感は否めません。今度はお互いベストコンディションの状態での対戦を見たいものです。

戦いも終わり滞在4日目13日は、南大門やソウル市内等を観光。吉田団長と私は、ソン副会長のジムを見学させて頂きました。ソン副会長のボディビル発展に対する意欲は大変に大きなものであり、今回の滞在期間中は大変お世話になりました。また帰国の際にも、わざわざ空港へ見送りに来て頂き、最後迄厚い持て成しを頂戴しました。

日韓親善試合は大変有意義な事業であり、今後も両国の親睦を計っていくと共に、アジアのボディビルの発展にも寄与するものだと思います。また、結果は二勝三敗となりましたが、日本選手も堂々たる戦いぶりでありました。今回は日本選手団としての仲間でありましたが、いざシーズンに突入すればお互い良きライバルとして切磋琢磨し合う間柄です。それぞれの選手のボディビルに対する熱い思いや意気込みは凄まじく、各選手の今後の活躍にますます期待したいものです。

最後になりますが、吉田団長をはじめ一流選手達と日韓親善試合に同行させて頂き、有意義な時間が過ごせましたことを感謝致します。